平成 29 年度　茅ケ崎市バリアフリー基本構想推進協議会
第２回市民部会　会議録

議題	報告 ・平成29年度第１回市民部会の振り返りについて 議題 （１）平成29年度の普及啓発の実践の具体的内容（案） （２）今後の進め方
日時	平成29年７月20日（木）　9：30～11：30
場所	茅ヶ崎市役所　本庁舎4階　会議室3
出席者氏名	部会長　：斉藤　進 副部会長：海津　ゆりえ、藤井　直人 部会員　：篠原　徳守、水島　修一、長　貴史、瀧井　正子 五十嵐　優子、上杉　桂子、鈴木　実、瀬川　直人、高野　幸子 矢野　竜也 （欠席委員） 部会員　：柏崎　周一、湊　里香 （事務局） 都市部都市政策課
会議資料	資料１　平成29年度第１回市民部会　会議のまとめ 資料２　平成29年度の普及啓発の実践の具体的内容（案） 資料３　今後の進め方 参考資料　第５回茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバルアンケート(案)
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	
傍聴者数	なし

（会議の概要）

１　開会

○山本課長補佐：本日の会議、部会員 15 名全員のうち 13 名の出席をいただいておりますので要綱の規定にもとづき会議が成立しています。

○斉藤部会長：議事録署名人は、瀧井委員にお願いしたいと思います。

２　報告

平成 29 年度第１回市民部会の振り返りについて

○宮崎主任：資料１（平成 29 年度第１回市民部会の振り返りについて説明）に沿って説明

○斉藤部会長：前回この部会で話し合った内容を振り返りとして確認した。今回は前回の部会での意見を踏まえて、具体的にどのようにスポーツフェスティバルに取り組んでいくのか議題に従って話し合いを進めていきたいと思う。

３．議題

(1) 平成 29 年度の普及啓発の実践の具体的内容（案）

○宮崎主任：資料２（平成 29 年度の普及啓発の実施の具体的内容（案））に沿って説明

○斉藤部会長：これまでの検討、財団との調整を踏まえた具体的な実践の案として、資料２の内容で実施できないかという説明であった。車いすバスケ体験を試験的な導入、スタンプラリーは難しいのでアンケートの実施や各団体の PR としてパネル展示等をロビーにおいて実施するという提案がされた。周知方法としては、より多くの人に来ていただくための効果的な方法を説明いただいた。このような提案についての意見をいただくのと、どのように役割分担をおこなっていくのかを検討していく。検討内容としては車いすバスケ体験の車いすの手配、インストラクター等指導者の配置やアンケートの内容等も検討しなければならない。検討事項は色々あるが、今の時点でご意見をいただきたい。より多くの方に理解していただき、外出を促進していただくというのが私たちの大きなテーマとしてあるので、各団体での呼びかけを積極的にやる必要がある。

○長委員：車いすバスケ体験を行うのであれば、私がインストラクターを担い、車いすの手配もする。ただし、運搬は手伝ってもらいたい。実施内容としては、ドリブルやパス、シュート程度だと思う。地域の小学校にミニバスケットチームがあるので、そこに周知を行えば小学生とその親たちが来るのではないか。

○斉藤部会長：車いすバスケに関しては長委員を中心にやっていただきたい。

○藤井副部会長：確認だが、ファミリーバドミントンは３面から２面になっているが運営

側で OK になっているのか。

〇宮崎主任：実行委員会が９月にあるが、概ね了承は得ている。

〇上杉委員：スポーツフェスティバルは、ちがさきヴェロ・フェスティバルと同時開催だが、障害者の方は車移動が多いことから、駐車場の確保ができるのかというのが１点。もう１点は景品の予算はどのくらいか。一人 100 円位の予算であれば、スポーツということからペットボトルのドリンクはどうか。

〇長委員：駄菓子の詰め合わせでもよいのではないか。

〇上杉委員：選べるのも良い。周知方法について、広報やタウンニュース等の他に、茅ヶ崎市にある福祉団体や、様々な委員会等に配布してはどうか。800 枚は少ないと思われる。

〇宮崎主任：確かに少ないと感じている。他の行事で小学生１人１枚配布を行ったが、合計 14,000 枚ほどであった。

〇瀧井委員：スポーツフェスティバルで配られているチラシは上等な紙質なので、もう少し安いものにしてもいいのではないか。

〇上杉委員：アンケートについて。障害者福祉計画でもアンケートを実施しているが、点字版や知的障害者向けにわかりやすい内容のアンケートなど、障害種別に関わらず回答してもらえるのではないかと思うので、検討しても良いのではないか。

〇斉藤部会長：駐車場の件はどうか。

〇宮崎主任：昨年のヴェロ・フェスティバルでの駐車場使用状況を確認する必要がある。これまでのスポーツフェスティバルでは、体育館の駐車場に空きがあったということなので、今年どのくらいの参加者がいるかを事前に想定し、駐車場を確保する方向で検討したい。

〇長委員：駐車場を確保する際、警備員を配置するなどの措置を取らないと健常者が停めて障害者が停められない事態になりかねない。

〇斉藤部会長：当日だけは体育館入口に車の乗り入れを可能にすることはできないか。

〇上杉委員：身体障害者だけではなく、知的障害の方も車での移動が多いと思うので、駐車場に関して同様の配慮が必要だと思う。

〇斉藤部長会：優先利用の配慮を進めていただきたい。景品の予算はどの程度か。

〇宮崎主任：今日の部会を踏まえて検討していきたい。スポーツフェスティバルなのでスポーツドリンクなどのイメージはあるが、時期が 11 月なので気候も考慮する必要があり、また金額もたくさんかけられるわけではないので、みなさんにアイディアを出していただきたい。併せて皆さんのお知り合いでノベルティの様な物を手配していただければ、より選択肢が広がることとなる。

○上杉委員：社協がキャンペーンの時に地元製品を購入したことがある。

○水島委員：当事者が製作した物を購入した経緯がある。ただし、数が揃わないので時間に余裕がないと難しいかもしれない。

○上杉委員：サポートセンターでお祭りをやった時には、企業からノートやボールペンなど色々な物を提供していただいた。

○海津副部会長：市民部会とは別に事業者部会もあるので、そちらでアピールするのはどうか。また、当日のタイムスケジュールの中での競技進行はどのようになるのか。アンケートは置いておくこともできるが、対面型でアンケートに答えてもらうとより意見を引き出せるのではないかと考える。

○宮崎主任：今までは会場すべてを使って同時に開催していた。進行は財団に任せているので、部会としては流れの様子を見ていく考えだが、タイムスケジュールで分けた方が良いなど、みなさんの考えを集約して財団に伝えたいと思う。

○長委員：ヴェロ・フェスティバルでたくさんの人が来場する。サウンドテーブルテニスを第二体育室でやるとしたら、音が邪魔してうるさいのではないか。

○鈴木委員：その件に関しては、前回の話し合いでも出たが、財団に確認したところ他に場所がないとのこと。他の部屋が取れたらいいのだが予約で埋まっているので無理とのこと。

○斉藤部会長：せめてサウンドテーブルテニスの近くでは音の静かな競技（例えばスポーツ吹き矢）を配置してもらえないか財団に打診することはできないか。

○上杉委員：２階会議室を使用するのはどうか。予約は１か月前からなので市の方で押さえる等の手段は取れないか。

○長委員：会議室で行うことになった時には、案内をしっかり置かないとならない。

○鈴木委員：会議室の間仕切りは防音が効いていないので音が筒抜けになる。押さえるのであれば両方の会議室を借りた方が良いと思う。市の方でそのような対応ができるのか確認をお願いしたい。

○宮崎主任：まず財団の方に打診する必要があるが、財団の了承が出れば市として会議室を確保する。そうした時にはレイアウト等の変更が生じる可能性がある。あくまでメインは財団にあるので、確認して市民部会で報告したいと思う。

○鈴木委員：２階に上がり奥へ入っていくので、動線を考える必要があると思う。

○長委員：ボランティアに誘導をお願いするのはどうか。

○宮崎主任：ボランティア等のお手伝いが必要な時は、市民部会が主になり動いていただくことになるので、その時は役割分担等をよろしくお願いしたい。

○斉藤部会長：市民部会が中心になって動いていかなければならないことが多いので、どのようにすれば効率的に動けるのかを前提に考えていきたいと思う。

○上杉委員：広く一般的にというのは良いことだと思うが、多くの知的障害や発達障害の方は子供の声が苦手であるのでそこが少し気になる。例えば子供でも参加対象を中学生以上と考えるのは難しいか。

○瀧井委員：私は何年か携わっているが、やっていて楽しいのは小学生であると思う。子供が来るとしてもたくさん来るというわけではない。去年１００名の参加があったが、常時１００名がいるわけではなく、同じ人が何回も来たりするので、会場がざわざわする感じではない。ＰＲの仕方では来場者数が変わってくるかもしれないが。

○鈴木委員：障害をいかに一般の方に理解してもらうかということで、子供の声が苦手だからどうしたらいいか、ということではないと思う。逆に、障害者はどのようなことが苦手なのかということを理解してもらって、社会生活を送っていきたいとアピールしていった方が良いと思う。そのためのバリアフリーではないかと思う。

○上杉委員：おっしゃる通りだ。ただ参加ができなくなってしまうレベルだと困る。私たち健常者にも苦手なことがあり、それに対して耐えなさい、慣れなさいというのは無理なことである。それと同じように障害者にとっては小さい子供の声はそういうことである。私の子供は２４歳で知的障害と発達障害がある。小さな孫が家に遊びに来るときにはイヤーマフと呼ばれる耳あてをして現れるというレベルである。そういった用意がないまま現れるのは拷問に近い状態であり、当日もこのような状態になった時には障害者は帰るしかなく、それにより健常者に障害者の苦手なことを知ることができるので意味のあることかもしれないが、障害者はもう帰るしかない状態になる。

○鈴木委員：一般の方に、知的障害の方はこういうことが苦手だということを知らせることが大事で、啓発していくことがバリアフリー化に繋がっていくのではないか。

○斉藤部会長：本来は、そういったことを知らずに行動を見て驚き、そういうことなのだと理解する、という風に成り立てば良いのだが、上杉委員の話は、そうではなく、パニックになってその場にいられなくなってしまったらどうしようということだと思う。

○上杉委員：知っていただくことを優先させるのであればそれもよいと思う。子供の声が嫌で帰ってしまった人は、来年は来ないと思う。どっちに重きを置くかということだと思う。今の話は私の想像の中での話である。

○斉藤部会長：実際にどうなるかわからないが、経験上そのような環境でパニックにはならないだろうとも思う。鈴木委員が言うとおり、みんなに知ってもらうという

ことはすごく大事であり、出発点として、知ってもらうということを頭に入れながら、何か起こった時の対処法を上杉委員にアドバイスをもらいながらやっていくという方向でどうか。来てもらって知るということがスタートだと思う。そこでどういう風にやっていかないといけないのかをみんなで話し合うのが大事。このような進め方でどうか。

〇上杉委員：今回やってみて、来年のために経験したいと思う。

〇斉藤部会長：対面式アンケートの件はどうか。配るだけではやってくれないと思うが。

〇宮崎主任：現在アンケートを作成中である。財団の方と話した時に、受付で財団のスタッフを配置し、そこでアンケートをやってくれるということだった。市民部会のスタッフもそこに入って、急いでる方には従来通りのアンケートのやり方で、時間のある人に関してはヒアリングをしながらという感じで、なるべく情報を引き出してコミュニケーションをとりたい。そこで話をすることで理解促進に繋がるとも考えるので、このような形をとりたい。

〇瀧井委員：育成会と身体障害者福祉協会が会場の案内とアンケートの回収を担当しているが、知的障害で書くのが難しい人にはヒアリング形式で実施しているので、このような形で良いのではないか。

〇海津副部会長：色々な人がその場で関わるということは、知らない者同士が出会えるという点で良いと思う。

〇海津副部会長：パネルについて、協議会のこともそうだが、障害そのもののことや障害者が見ると有益な事もパネルの中に入れられると良いのではないか。どのように作るのかはこれから考えていくことだと思う。また、できるかわからないが、どういう障害を持っていてどういうことが苦手で、どういうことができるのかということを簡単に書いて名札のようにするのはどうか。

〇上杉委員：自分の障害についての名札を付けるということはかなりハードルが高い。

〇鈴木委員：視覚障害の方は、白杖を持っているのでみなさんに見える形で常に公表している状態である。

〇瀬川委員：精神疾患を抱えている方を考えると、「何で？」となり、普及啓発の一環だと説明しても名札を付けるのであれば、「俺はいいや」という反応が多くなると思う。レッテルをはられた感じになるのではないか。

〇海津委員：子供の声が苦手だということがあったので、周りが配慮して助けになればと思った。

〇矢野委員：アンケートについて、様々な種目があり今回は車いすバスケット体験があるが、参加した人にしかわからないようなクイズがあると良いと思う。また、景品については、実施競技（フライングディスク、ダーツ等）の中で使うグッズ

などであれば、帰った後でもやってみようという感じになり、景品の意味があるのかと思う。車いすバスケットボールでは親子連れがたくさん来ることが予想されるが、子供用の車いすを用意するのか。

○長委員：低めの物を用意すればある程度はできる。本格的にやるのではなく、ドリブルをしたりちょっとした体験を想定している。私がイメージしているのは、東京オリンピック・パラリンピックがあり、テレビで車いすバスケも取り上げられているので興味を持っている人がいると思う。車いすに座ってみるということでも十分であり、更にドリブルをやってみるという感じで良いと思っている。

○矢野委員：安全にプレイするために車いすのサイズを用意することが大変ではないか。

○長委員：色々な大きさの車いすを準備する予定なのでなんとかなると思う。

○上杉委員：周知先に茅ヶ崎養護学校と支援学級を入れるのはいかがか。

○斉藤部会長：今回の車いすバスケに関しては長委員の言うとおり、体験してもらうくらいの方が良いと思う。

○鈴木委員：サウンドテーブルテニスを２階に移動しようという話が出ているが、テーブルを２階に運べる位の大きなエレベーターはあるのか。

○宮崎主任：卓球台の移動が可能なエレベーターが体育館にあるのかどうか確認する。

○藤井副部会長：ちがさきヴェロ・フェスティバルが同時開催になっているが、どのように関与していくのか。

○宮崎主任：資料の３．（２）で説明していく。市民部会主体でやるとなると中々人数も集まりづらく、開催が土曜日なので必ずみなさんに来ていただけるのかということと、ボランティアを募集した場合、サポート側に回るとなると事前にレクチャーが必要になると思う。今回我々も初めてなので、どういった動きになるのかあくまでも想定になるので、あまり積極的な連携はできないと感じている。お互いの会場でそれぞれの情報を紹介する程度かと考えている。まずは初めての試みとして、２つのフェスティバルを同時に楽しんでもらえればと思う。

○藤井副部会長：スポーツフェスティバルに来た障害者をヴェロ・フェスティバルに勧誘するのがメインなのか、あるいはヴェロ・フェスティバルに来た一般の人にこういう障害者のスポーツをやっていますよという宣伝の方がメインなのか、どっちなのか。

○宮崎主任：非常に難しい部分であるが、本当は両方やりたかった。例えばヴェロ・フェスティバルに来る人たちの中にはスポーツフェスティバルで体験したいという人がいると思うが、体育館に入るには体育館履き等の準備が必要になる。そういったものを準備できればいいが、今調べている中では準備できそうにな

い。体育館でやっているよ、と宣伝しているのに来てみたらできない、裸足では怪我の心配もあるということになるので、積極的なＰＲができない。逆にスポーツフェスティバルの人にもヴェロ・フェスティバルに行ってくださいと呼びかけて、一人で行ける人もいればそちらの会場に行くにはサポートが必要な場合もある。行きたいという人が大勢いる時に、私たちのサポートだけで間に合うのかという点も非常に不透明である。従って、相互の行き来というのは積極的にＰＲできないと思う。

○長委員：前回のスポーツフェスティバルに参加した時は、来場した人が体育館内で靴を履きかえていなかったと思う。

○瀧井委員：土足禁止であるため、体育館履きを持ってきて下さいとお知らせはしているが、持ってきていない人は裸足の人もいたかもしれない。シートは敷いてあったが、机や椅子を置くため、車いすが通る部分等の傷除けのために敷いてある。

○長委員：例えば当日だけは土足可とするわけにはいかないのか。

○瀧井委員：以前靴の底を拭いてはいるのではダメかと体育館職員に聞いたことがあるが、ダメだと言われた。

○上杉委員：車いすはいかがか。

○宮崎主任：車いすは大丈夫である。

○瀧井委員：緑色のシートの上を一旦通り、タイヤの汚れを拭いてから入る。

○五十嵐委員：スポーツフェスティバルの実施に際し、所属する団体の方の協力を得るため、早めに協力依頼を行いたい。

○宮崎主任：今回提案した内容で進めることに合意をいただいた後に、想定される必要人数を算出し、皆様へ報告するので、ご協力を願いたい。

○斉藤部会長：事務局が提案した内容で進めることに意見が無ければ、事務局において詳細を詰めていくこととする。

(2) 今後の進め方

○宮崎主任：資料３（今後の進め方）に沿って説明

○斉藤部会長：今年度はスポーツフェスティバルとの連携を実施することとし、アンケート調査によって明らかになる課題を今後解決していく形としたいということである。当事者が外出することによって、触れ合いを創出して理解を促すこととなる。

○長委員：鎌倉の海水浴場でバリアフリービーチが開催される予定であり、そこでは砂浜にマットを敷き、車いす利用者や高齢者等が海に親しむことができるイベントである。サザンビーチでも同様のイベントを実施することにより、普段外出し

ていない方が外出するきっかけとなるのではないか。

〇斉藤部会長：茅ヶ崎という地の利を活かした取り組みであると思う。今後、部会の中で検討していきたい。

〇藤井副部会長：スポーツフェスティバルとの連携を継続していく場合、今後のあり方を見定めると同時に、実行委員会への引継ぎ体制を構築する必要がある。

〇上杉委員：過去のアンケート結果から、取り組みに参加したい方が多いということであれば、スポーツフェスティバルの周知を各団体に行うことも効果的である。

〇宮崎主任：周知については、皆様にご協力をいただき、各団体へもチラシを配布したいと考えているので、ご協力お願いします。

〇五十嵐委員：アンケートについて、住まいを聞いたほうがいいのではないか。また、楽しかったものの欄については、パネル展も入れるべきではないか。

〇上杉委員：アンケートの記入者欄について、本人と介助者となっているが、本人との関係を記載していただいた方が良いと思われる。誰と会場に来たか、ということも聞けるとよい。また、他課のアンケート調査で記入者の性別や年齢を記入する人が出てきてしまったので、そこは、「ご本人の性別」「ご本人の年齢」というように明確にした方が良い。

〇海津副部会長：健常者に対するアンケートとして、当事者と触れ合って何を感じたか、今後どうしていきたいかという設問があるとよい。また、スポーツフェスティバルへの再来意欲も盛り込めるとよい。

〇宮崎主任：アンケートは参考資料として案の状態であり、いただいた意見を取り込んで改めて提示させていただく。

〇斉藤部会長：アンケートについて、意見を盛り込めるか検討を行う。また、内容が若干重複している部分があるので、整理することとする。今年度は、事務局から提示したスポーツフェスティバルとの連携で進めることとするが、アンケートの内容や必要人数など、事務局において整理して、改めて委員の皆様に提示することとする。

４　その他

〇特になし

５　閉会

部会長署名　斉藤　進

部会員署名　瀧井　正子